

水素による新型コロナウイルス肺炎の治療・後遺症治療の最前線！

①2021年、呼吸器研究の世界的権威であるモスクワ大学、アレクサンダー・チュチャーリン博士率いるチームが「AFH(活性状態の水素)吸入はコロナ後遺症を劇的に改善する」という内容の論文を発表しました。最近問題になっている新型コロナウイルス感染後の後遺症ですが、感染者の4人に1人がその症状を訴えており、症状としてはひどい倦怠感、気分の落ち込み、思考力の低下などの脳機能障害、息苦しさを訴える呼吸器障害、また、脱毛や味覚・嗅覚障害など、多くの障害が挙げられています。

そんな中、この論文では新型コロナに感染し、後にPCR検査で陰性とされた60人を対象に臨床試験を行っています。そのうち30人には標準的な治療を行い、残りの30人にはAFH吸入を含めた治療を行いました。臨床試験はコロナウイルス患者粘膜免疫に対するAFHの影響、血管内皮細胞に対するAFHの効果、酸化ストレスへのAFH効果などを調べることを目的に、炎症マーカー、肝機能マーカー、心拍数、酸素分圧や、運動能力なども含めて、全部で69項目の数値設定をし、検証しました。その結果・・・『COVID-19の罹患した医療関係者のリハビリテーションプログラムにおける水素吸入』によると、

- ・歩ける距離が大幅に伸びた
- ・血流が悪くなった血管の状態が改善された
- ・酸素が全身にしっかり運ばれるようになったなど、科学的なデータが得られたのと同時に多くの方が「自覚症状が軽減された!」と語ったそうです。

②2022年1月、慶応義塾大学医学部は「水素は、炎症反応を改善する」という内容の論文を発表しました。免疫反応として存在する「NETs」は自己の核内のDNAを網羅するように拡散し、病原菌やウイルスを閉じ込め、また、殺菌処理機能をもつものですが、過剰に生産されて制御不能になると、炎症性疾患、自己免疫疾患、血栓性疾患に繋がります。このNETsの血管内凝集が血管の閉塞、臓器破壊を招いています。コロナ感染者はこのNETsの予後不良を示唆しており、慶応大学医学部はこのNETs形成に着目し、水素吸入による抗NETsの形成・放出・活性化抑制の作用機序を解明しました。

※AFH(活性状態の水素とは)

水素の生成方法は二種類あります。一つ目は「電解方式」で生成した通常の水素分子(電子が2つ揃った安定した水素分子)です。水を電気分解して生成する水素で一般的な水素生成器で採用されている発生方法となります。二つ目は、「過熱蒸気還元方式」。この方法は、熱と還元剤を使って生成する方法です。水は加熱で100℃を超えると水蒸気になります。この水蒸気を更に熱し、酸素を吸着する還元剤に触れさせると、還元剤が酸化され、水素だけが残ります。この方法で生成された水素ガスは、水蒸気に包まれている状態で水素が生成されるため、AFH(水分子に囲まれた原子状水素)として多く生成されます。このAFHは、通常の水素分子より、「還元力(酸化してしまった物質を元に戻す力)」が圧倒的に高いことが証明されています。

これまでも、

- ③中国・武漢では、コロナによる中等症肺炎の患者に対して水素ガス吸入治療の臨床試験が行われ、水素ガス吸入が症状を改善する、と発表をされており、また、
- ④九州保健福祉大学では、AFHは免疫を強化すること、炎症を抑えること、血管を若返らせること、を証明してきました。ただ、これまでの研究結果では、水素の作用・効果のメカニズムの証明が不十分な点があったようです。その不十分とされていた点の作用機序が、現在、世界中の研究によってどんどんと明らかになってきています。

参考文献

- ・『なぜ新型コロナウイルスの後遺症は「活性状態の水素」で改善するか』
著者:医療ライター 谷垣吉彦 2021年12月31日刊行
- ・「水素は活性化した好中球のNETs産生を抑制し、炎症反応を改善する」
2022年1月14日 慶応義塾大学医学部よりプレスリリース

編集後記

春らしく穏やかな気候に心と季節となりましたが、いかがお過ごしでしょうか。今回、新型コロナウイルス後遺症に対する水素研究の最前線を紹介しました。水素治療の科学的な作用機序が明らかになっていけば、水素治療がますます普及していくのではないのでしょうか。予防にも効果の高い水素をぜひ健康維持にご活用いただければ幸いです。

MINTECH

株式会社メンテナンス

〒130-0022

東京都墨田区江東橋4-24-5

協新ビルディング401号室

TEL 03-5669-0986

FAX 03-5669-0987

E-mail: info@mintech.ne.jp

https://www.mintech.ne.jp/



MINTECH 水素発生器 MT-A100